寄せ太鼓

北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館
運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号（〒807-1261）
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

第24回 宿場（筑前こやのせ）まつり

11月6日開催

子どもたちも祭りを盛り上げます

「みんなで踊ろう宿場をどり」をキャッチフレーズとした筑前木屋瀬宿場まつりは、本年第二十四回目を迎え、十一月六日（日）に開催されます。

今日まで実行委員会が立ち上げられ高宮歳継実行委員長を始めとする主要な役員体制も決まり各構成団体の相互協力のもとまつりの成功を期そうとしています。まつりは、総務・企画・広報・運営の四つの部会長のもと準備がすすめられていますが、あくまでも自主運営・自主企画を基本として組み立てられています。

地元木屋瀬の伝統芸能である「宿場をどり」を中核に、無形民俗文化財として指定されている近郷・近在の伝承盆踊りを配した企画がメーンとなっています。

まつりの企画は町の活気を呼び戻し、近郷の市町との連携を強め、さらにはまつりの継承を意図した思いが込められています。子どもからお年寄りまで全住民の参画によるおまつりですが、可愛い子ども達の出番が数多く散りばめられています。幼稚園児の絵画展、小学生の研究発表、宿場まつりポスター展、そして中学生による吹奏楽演奏とマーチング、中学校のクラブ紹介、さらに、今年は宿場をどりの子ども踊りが加わりこれまで練習が重ねられてきました。

次代を担う子どもたちがまつりに参画し、まつりを通じて木屋瀬の伝統・文化・風土・人情などについて感じ、学び、未来の地域づくりに活かしてくれれば望外の喜びであります。

今年の宿場まつりは、青空市場やフリーマーケット、蚤の市など多くの出店も用意されており一段と賑わいも増すことでしょう。手づくりのまつり「宿場まつり」の成否は住民の皆さんのご協力にかかっています。よろしくご支援・ご協力をお願いします。

木屋瀬宿記念館運営協議会
広報部会長 徳永興紀

▼こやのせ座落語会告知　平成28年11月3日（木）

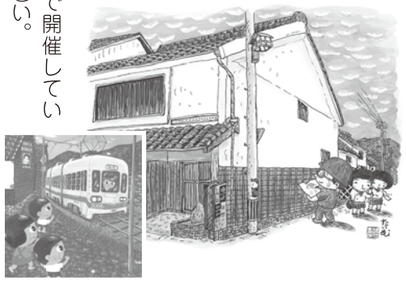
木屋瀬宿記念館こやのせ座におきまして、平成28年11月3日（木）にこやのせ座落語会を行います。出演は北九州市出身の林家きく麿師匠です。開演は14時（開場13時30分）で入場料は大人500円（当日800円）、中学生以下200円（当日300円）、未就学児無料となります。現在、予約受付中です。ぜひお越しください。

▼第64回企画展
「畑たいむ『北九州路地裏さんぽ』原画展」
平成28年12月11日（日）まで開催

今回は漫画ミュージアムの館長も務める漫画家、畑たいむ氏ご協力の元、今年出版された「北九州路地裏さんぽ」に掲載されているイラストを展示しています。

畑たいむ氏は1982年に週刊少年マガジン増刊号で漫画家デビュー、その後も北九州を中心に創作活動をされています。

平成28年12月11日（日）まで開催していますのでぜひ足をお運びください。



今年もやります！

年越しそば打ち

日時
平成28年12月29日(木)
10時～15時

参加費
1,200円（実食：かもそば）
※材料費。7人分持ち帰れます
※追加1,000円で別途7人分持ち帰れます

定員
30名（予約制）
※蕎麦打ち名人に保存法、調理法ほかも指導していただきます。

申込先
木屋瀬宿記念館
☎093-619-1149
年越しそばの販売もしております。

宿場町木屋瀬（こやのせ）。心に郷土が染みてくる。歴史とふれあう記念館。

わたしの昔話

【柴田豊廣遺稿集】より

■江戸幕府成立記念日（八朔）

旧暦八月一日は八朔（はっさく）祭りである。新暦では九月中旬になるだろう。

天正十八年八月一日、徳川家康が豊臣秀吉に、関八州をもらい堂々と江戸入りをした日である。これからの江戸では、旗本衆やご家人衆は八朔の日には江戸城に総登城し、将軍家に祝詞をのべる大事な日となった。江戸の八朔は、江戸幕府が成立した記念日であると同時に大祭日でもあった。江戸幕府は此の日を、夏の保健衛生を考える日として、全国公休日と定めた。

遠賀郡芦屋町の八朔は、無形文化財の藁細工の騎馬人形を供え、男の子を祝っている。木屋瀬の八朔は、七夕笹に似た大型の門笹を軒に飾っていたように思う位で明らかでない。

商家も八朔を祝っていたが面白い事に、この日は、行いを慎まねばならない事になっていた。農家も八朔頃は、収穫も近付いているし稲刈りの準備に気負う頃でもあり、大事な時なので八朔の神をお祭りし豊かな収穫を、おいのりしていた。江戸幕府成立記念日と言う縁起にあやかりてか、八朔祭りは全国的に盛んであった。

■延命飴（七五三）

男の子は五才で少年になり、女の子は三才、子供組にはいれるようになりますので、みんなでお祝いをいたします。

江戸時代に七才の女の子を物日として、お祝いに加えるようになり、七五三と呼ぶお祝い事になりました。男の子は万事に勝るようにとねがい、碁盤の上に立たせ四方を礼拝させます。髪も剃っていたのを伸ばし後ろでくくります。女の子は着物の紐を帯に替え赤い腰巻をつけます。この他年に応じた定まりもありますけれど先ずは、身体を清潔に整えまして氏神さまにおまいりし、毎日楽しい日でありますように嬉しい日でありますようにお願いいたします。

千歳飴を頂いた子供達は晴れ晴れと可愛く、神の大前の主役であります。千歳飴、古くは延命飴と言っていたようで飴が長く伸びるので老人が私達の命を長く伸ばして下さいと、神さまにお願いして、年祝いに頂いていた飴と言われます。

その飴が今若く可愛くキラキラしている七五三祝いの子供達の、千歳の幸福をねがい千歳の健康をおねがいする飴となりました。おめでたい日の良き飴であります。

本町　柴田由美子

平成29年のイベント告知

木屋瀬いろは歌留多大会
平成29年1月8日(日)

平成29年1月8日(日)、毎年恒例となりました木屋瀬いろは歌留多大会を開催する予定です。木屋瀬の文化と伝統が織り込まれた、木屋瀬ならではの歌留多に触れる貴重な機会となります。参加者には記念品も用意させていただく予定ですので、たくさんのご参加をお待ちしております。

こやのせNewYearコンサート
平成29年1月15日(日)

平成29年1月15日(日)、響ホール室内合奏団の方をお迎えして今回で5回目となりますこやのせNewYearコンサートを開催する予定です。どの年代でも楽しめるような幅広い楽曲をご準備くださいますので、皆様のご来場をお待ちしております。

木屋瀬祇園祭

御支援・御協力ありがとうございました

筑前木屋瀬祇園祭りでは、多くの皆様のご協力・ご支援を賜り、二日間の行事を無事に終える事ができました。

また、新町七町の総取締役という大役も成し遂げることができ、応援していただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

当日二日間の天気予報は雨でしたが、晴天に恵まれたおかげで、何事にも支障をきたすことなく進み、無事終える事が出来ました。

当番町を受ける世帯としては、13世帯という今までにはない程の少ない軒数で果たして当番町が務まるのかと不安でいっぱいでしたが、皆様のご協力のおかげで、何とか乗り越えることができました。

設営関係はもちろんですが、まかない関係も課題が多く初めての試みばかりでお手伝いをしていただいた各町内の婦人部の皆様にはご迷惑をかけたこととおもいます。

この場を借りてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

木屋瀬祇園祭りがこれからも末永く、益々盛大な祭りになりますよう祈念いたします。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

一番山笠改盛町　総取締役　八尋弘文

多くの皆様方のご指導、ご支援を頂き先人達が永い年月守り続けてこられた筑前木屋瀬祇園祭を継承する事が出来、無事二日間を終える事が出来ました。町会を代表し厚くお礼を申し上げます。誠に有難うございました。

また、各役員の皆様には大変ご苦労をおかけしました。重ねてお礼を申しあげます。

毎年思うことですが次世代を担う子供達の嬉々とした姿を見るにつけ、継承する事の大切さを感じ末永く続く事を念願するものです。

最後になりましたが本部役員の皆様、裏でしっかり祭りを支えて頂きましたご婦人方に感謝の意を表しお礼を申し上げます。有難うございました。

二番山笠東中町　総取締役　田中　巌

文化発信の寄せ太鼓。こやのせ座発、全国行き。ホームページ http://www.city.kitakyushu.lg.jp/shisetsu/menu06_0005.html

幕末の長州奇兵隊と各藩の農兵
① 奇兵隊の誕生と福岡藩農兵

木屋瀬みちの郷土史料保存会　松尾　良美

風雲急を告げる幕末の文久三年は、十四代将軍徳川家茂の上洛や幕府の鎖港通告と長州藩の攘夷実行に伴う欧米諸国の四国連合艦隊による報復攻撃で関門海峡で戦火を交えるに至った。

この戦場に登場したのが、東行と号し、山口の萩郊外に隠棲していた高杉晋作であった。この歳の六月に、藩主より下関防御を任された。晋作は、「我に策あり」と献策して、その結果は「奇兵隊」という武士以外の農民や商人を交えた新しい軍隊を結成した。

その奇兵隊は、武士からなる藩の正規兵を補うための軍隊であり、武士以外の身分の者でも、「志」があれば入隊を認めるという点が画期的であって、二百五十数年以上も続いた泰平の世に慣れた武士だけに、もはや頼れないという事で、藩からすれば苦しい選択であったのであろう。

こうして、広く門戸を開いた結果は、晋作が結成した騎兵隊の構成の割合は、武士五割・農民四割・商人その他は一割という、異なる身分の人々による軍隊へと成長していった。

高杉晋作は長州赤間関の盟友であり、また経済的援助を惜しみなく盡して呉れた勤王商人白石正一郎に次のように述べている。

「門地（家柄）なく、貴賤（上下別）なく、身分（職業の別）なく。志のある者を呼び集め、個々の実力を尊び、堅固の隊を整えたい。」

高杉晋作が、四ヶ国の艦船の砲撃で甚大なる被害を受け藩の存亡の危機に際して、郷土防衛に湧きたった、藩内の領民等を結集して創設したのが奇兵隊であった。

当初は武装も貧弱な臨時の義勇隊であったが、やがては全員洋銃装備と洋式調練による正規軍となって、強力な軍隊となって奥州での戊辰戦争に活躍した。これを契機となって慶応年間には、各藩でも競って武士以外の身分の農民や商人を募った軍隊が結成された。

さて、今回掲載されている冊子のさし絵の表題は、「慶応四年・御用会留書・辰正月」と記されている。この慶応四年は、九月八日に年号が改元されて明治元年と変っている。「御用会留書」の内容は、村庄屋等が幕府や藩からの触書（法度等）の文書を郡奉行所や大庄屋を通して伝えられた文書を書き綴った帳面である。また、表題の文字の会は會の略字であって、辰正月とは慶応四年が干支（十干と十二支の組合せで六十通）で、戊辰（つちのえたつ）の辰を毎月の頭に掲げて辰正月と呼んでいた。以上のように此の冊子の中に農兵組織の編成が記述されているので紹介したい。表紙を開いた初めの頁には、福岡藩に於ても数年後には長州藩の奇兵隊の活躍を参考にして、武士以外の身分の農民や商人達を中核とした兵制の洋式軍隊への転換を行った事が委しく記述されているので紹介したい。

一、農兵四百人の内訳は、鞍手郡内六拾七ヶ村で百七拾三名で、遠賀郡内八拾八ヶ村で弐百弐拾七人と書かれている。

当時の鞍手郡と遠賀の両郡にある百五拾五ヶ村で、四百人の農兵を徴募している。

内・八拾三人・本城、六拾五人・別府、七拾九人・拂川、六拾五人鶴田、五拾九人・黒丸、四拾九人、中山、以上の六ヶ所は、江戸時代の両郡の村名であるが、それぞれの村名に掲げてある人数は何を指すか定かでない。

一、壱触射場所四ヶ所宛。触とは、江戸時代は郡を幾つか分けて、村々を統括する大庄屋が居住する村名を掲げて呼稱していた。射場所とは農兵が洋式調練で銃で射撃の練習場所

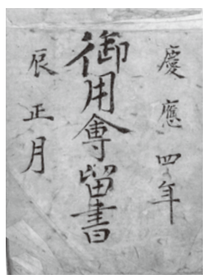
一、大庄屋八平日帯刀御免

一、頭取（隊長）ハ小羽織之節帯刀戴付

一、庄屋格以上小羽織之節股引伴天着用御免

一、定日（射撃練習日）稽古ハ玉薬相渡候事

以上五ヶ条の但し書が示されている。次回には、この「御用会留書」に遠賀・鞍手両郡より四百名に及ぶ農兵が編成されているので、その出身村や氏名が記載されているので記述したい。



ホラーメイクも大好評！

夏休みイベント報告

木屋瀬宿記念館では、8月6日（土）にこやのせたなばたまつりを開催しました。昔あそびや人形ボードヴィル・ドラによる人形劇、星座観測を行いたくさんの子ども達や親子が遊びに来てくださいました。

今年初めて行った「ホラー・マンガメイク」は、開始直後からたくさんの方が集まってくださり、盛況のうちに終わりました。また、広場で行われたそうめん流しには約100名と多くの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

最後になりましたが、イベント開催にあたりご協力をいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

シリーズ　筑前木屋瀬宿　神仏めぐり

第三十八回　浄土真宗本願寺派　白髪山西元寺

～第十六世　釈　大裕住職を訪ねて～

私は、この十数年九月の初めに芦屋海岸に仲間と一緒にごみ拾いに出かけます。びっくりするほどのごみが、海岸に打ち上げられています。海の神様が居られるとすると、大変お怒りではなかろうかと思います。さて、今年は、かつて上陸したことのない北海道や東北に台風が何度も上陸し大きな被害をもたらし、又、平成二十三年の東日本大震災に続き、まさかの、今年の熊本の大地震です。地球に何らかの大きな変動があるように感じられます。世間では、障害者施設の元職員が多数の療養者を殺傷し、又、親兄弟の殺し合いや、ついには、人を殺してみたかったからと殺人を犯す人など現れる世の中です。なんとも、殺伐たる最近の世の中です。世界的に見ても、テロや戦争が続き動乱の時代と言うべきでありましょう。

第十六世　釈　大裕 住職

このような、時代を仏教的には、「末法」と言います。釈迦の教えが生きている時代を「正法」、釈迦の教えが崩れていく時代を「像法」、釈迦の教えが廃れる時代を「末法」といいます。「末法」の時代になると、自然災害や人的災厄が続出し、世の中が大混乱を起こすと言われています。今から、千年位前の平安時代に、「末法」の時代に入ったとされ、特に平安末期には、政変の混乱が起こり、天変地異や疫病がはやり、京都の町は都大路に死体の匂いが漂い、廃墟の町となっていました。人々は、「末法」が始まったと信じられ不安におびえていました。この時代に、人々の不安に立ち向かうべき教えを広められたのが親鸞聖人です。それは、「他力本願」という教えです。人間世界の中で解決することではなく、阿弥陀如来という仏に身をゆだねる教えです。

さて、秋の彼岸の頃、西元寺の住職、第十六世釈　大裕氏を訪ねお話しを伺いました。西元寺は、天正年中（1573～）開基の古刹で、その後、現在に至るまで、親鸞聖人の教えを伝えるお寺です。

釈　大裕氏は、平成八年に第十六世西元寺住職を継職され、今年で二十年を経過されています。西元寺で生まれ、木屋瀬小学校から中学、鞍手高校を卒業され、その後、京都の龍谷大学を卒業され、宗門の専門課程の勤式を修養され、西元寺の法務につかれました。

住職に就いて、「特にこの10年は大変な期間でした」と述べられました。それは、平成の大事業として本堂の新築に取り組まれたからです。以前の本堂は江戸時代の建築で、創建以来幾度も修理を行い、特に昭和に入り三度の大修理を行っています。しかし、最近では、雨漏りは止まらず、屋根の形状は崩れ門信徒の聴聞の場としては大変危険な状態になっておりました。

そこで、又修理でその場しのぎをするか、根本的解決として、新築するかを、日夜門信徒と相談され、新築を決断され、平成十九年に全門信徒に本堂新築の趣意書が配布され新築への取り組みがはじまりました。まず、本堂の解体から始まり、本尊の遷座法要、起工式、棟上げ、入仏式、落慶法要と行事が山積しました。同時並行で毎日の建築の作業、懇志の入金、建築費の支払い等多忙な日々を過ごされ、また、宗祖の七百五十回大遠忌法要も重なりました。そのような中、突然母上の前坊守の浄土への往生、その後、前住職父上の浄土往生と大変な十年間であったと回顧されていました。

新築の西元寺本堂

「二十一世紀の日本は、過疎、少子化、高齢化が進み町や村の消滅も囁かれる時代です。お寺も同様な危機をはらんでいます。しかし、物から心の時代と言われています。（人間いかに生き、いかに死ぬべきか）（人間どこから来て、どこへ行くのか）その根源的問題に答えようとした、親鸞聖人の生き方、教えを伝えることが、この動乱の時代を生きる根本解決の道であるのではなかろか」と語られました。

人生は一夜の夢か彼岸花
望月や弓張り屋根の西元寺

宿場木屋瀬街づくりの会　会長　野口靖彦